

わがまち「守谷」

もりや 守谷市長(茨城県) あいだ しんいち 会田真一
Shinichi Aida



真実一路

私の座右の銘は、「真実一路」です。辞書を引くと、「真実を求めて一筋に生きていくこと」

「真実」は、まこと、ほんとうのこと。

「一路」は、一筋の道、一筋の道をまっすぐに、ひたすらの意、とあります。

山本有三著「真実一路」の題に添えられた

「真実一路の旅なれど、真実、鈴振り、思い出す」とあるこの詩は、白秋の「巡礼」です。心に響く詩です。

私は、昭和55年、町議会議員となり、平成4年に町長に、平成14年には、単独で市制を施行し、市長に就任し、現在に至ります。



つくばエクスプレス守谷駅周辺の景観(富士山を望む)

幾度かの困難、壁に突き当たることもありましたが、私は「真実一路」を信条として、今日まで歩んできました。

この間、周りに流されず、自分を偽らず、嘘はつかずに生きたいという思いを持って、自分の信条を貫いてきたつもりです。

「市民のために。守谷のために。守谷をもっと良くしたい」という強い思いは、昔も今も変わりません。

工作上、さまざまな角度から検証すればするほど、決断に迷うこともあります。夢や目標を見失わないように、迷いがある時は、鈴を振り、初心を思い出し、自分を取り戻し、戒め、真実を見極めながら、偽りのない真心をもって一筋に進むことができると思っています。

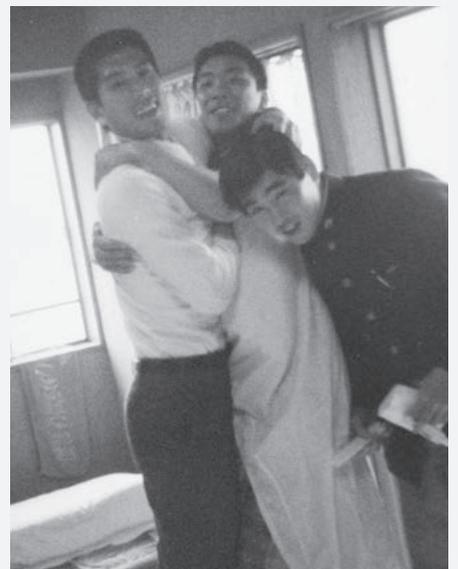
これからも、自分自身が正しいと思った真実の道を、不器用ながらも一所懸命に貫き通そうと思います。

健康寿命

私の趣味は、「ハンドボール」と「ゴルフ」です。

学生時代は、勉強よりハンドボールに明け暮れる毎日でした。

ハンドボールは、走・跳・投という運動における基本の3要素が求められ、さらにボディコンタクトという格闘的な要素も含



オリンピック代表となった同期と筆者(中央)(昭和47年当時)

まれる総合スポーツです。

ダイナミックなシュートやスピーディーな試合展開が魅力であり、本場欧州では、とても人気があるスポーツです。

今では、さすがに、プレーはしていませんが、母校のリーグ戦などを観戦し、一喜一憂、楽しんでいきます。

学生時代の同期には、オリンピック代表に選ばれた選手もいて、そして、今でも当時の仲間と親交が続いていることは、とても大きな財産です。

本市は、ハンドボールが盛んで、市立けやき台中学校のハンドボール部は男女ともに全国大会で優勝、また、スポーツ少年団の守谷クラブにおいても、全国大会で優勝しています。

子どもたちの活躍により、日々、勇気と感動、元気をもらっています。

ゴルフの方は、現役でプレーしていますが、最近、歳のせいか足腰の痛みに悩ま

れています。

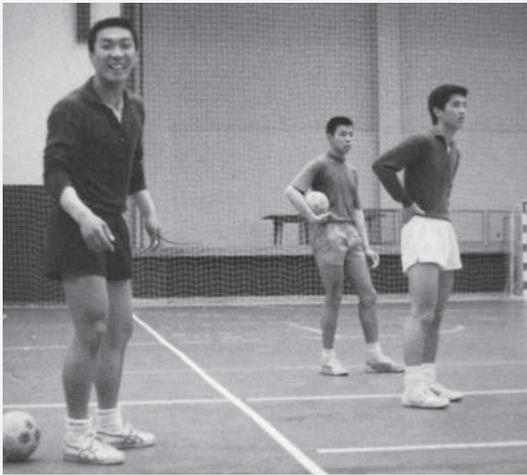
体を動かすことが好きなので、80歳を超えても、続けられればと思います。そのため、日ごろからのバランス良い食事や適度な運動、アルコールを控え、規則正しい生活に努めることが重要ですが、これがとても難しいことです。

今後のまちづくりにおいても、平均寿命ではなく、健康寿命をいかに伸ばすか、いかに健康に生活できる期間を伸ばすかが、高齢化社会を迎えた今、重要な課題の一つです。

平均寿命が伸びても、晩年は寝たきりということがなく、健康で幸せな生活を送れるライフスタイルが求められます。

今後のまちづくり

本市は、茨城県の南西端に位置し、東京都心から40km圏内にあり、三方向を利根



ハンドボールに明け暮れた学生時代の筆者(左)(昭和47年当時)

川・鬼怒川・小貝川に囲まれた水と緑が豊かなまちです。

鉄道は、秋葉原とつくばを結ぶ首都圏新都市鉄道・つくばエクスプレスおよび関東鉄道・常総線が通っています。

平成17年に開業した、つくばエクスプレス利用により、守谷駅から秋葉原駅まで、直通32分で快適にアクセスできます。守谷駅の始発が多いのも魅力です。

高速道路は、常磐自動車道が通っており、守谷サービスエリアは、東京方面最後のサービスエリア、福島方面最初のサービスエリアとして、多くの方々に利用されています。

毎年、経済誌主催の全国都市「住みよさランキング」において、昨年の総合5位を含め(平成20年に総合1位)、平成19年から常に総合順位ベスト10以内、茨城県内では、第1位にランクされ、また、主婦向け情報誌の「主婦が幸せに暮らせる街ランキング」では、全国8位に輝くなど、高い評価をいただいています。

昨年発表された日本創成会議の試算では、本市は、総人口が増えることとされ、削減可能性都市のリスト外ですが、若い女性の数は減少するとされており、引き続き、本市の活力を維持できるよう「まち・ひと・しごと創生法」に基づく総合戦略を立て、これに合わせて、総合計画も1年前倒しで策定する作業を進めています。

将来を見据え、地域力を高めるため、平成24年には、全職員を全自治会に配置する「地域担当職員制度」を導入しました。

また、平成26年には、新たな視点で魅力を創造し、戦略的に情報発信することで、より多くの市民の定住につなげることで、守谷への愛着や誇り、一体感を醸成することなどを目的にシティプロモーションマネージャーを採用し、情報発信に努めています。

現在は、守谷で育った子どもたちが、また、守谷にもどり、住んでもらうような施策を検討しています。

市民が、真に「住みよさ」を実感でき、そして誰もが守谷を「終のすみか」と望み、「住んでよかった」と心から思える「住みよさ日本一」のまちを目指しています。



開業当日の「つくばエクスプレス」で日本一の優勝旗を届けてくれた「けやき台中学校男子ハンドボール部」と記念撮影する筆者(左から2人目)